

## 第2回我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議概要

- 会議名 第2回我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議
- 日時 平成26年1月9日(木) 9:30~11:30
- 場所 我孫子市役所 議会棟 第1委員会室
- 出席者 [専門家会議委員] 足立委員・神野委員・野口委員・渡辺委員  
[我孫子市] 芹澤企画財政部長  
[事務局] 大畑企画財政部次長兼企画課長  
増田生涯学習部次長兼生涯学習課長・木下課長補佐・高見澤主査長  
[関係課] 徳本環境経済部参事兼農政課長・増田農政課主幹・染谷商業観光課長  
滝川商業観光課主任・森都市計画課長補佐・田中文化・スポーツ課主査  
飯泉公園緑地課主査長

■傍聴者 3名

### ■議題等

- 1 マーケティング調査について
  - (1)団体アンケート調査について
  - (2)企業ニーズ調査の実施について
  - (3)市内ホール稼働状況について
  - (4)農産物直売所設置に関する調査について
- 2 先進事例調査について
- 3 導入機能・規模について
- 4 候補地の概要及び評価・選定基準について
- 5 次回の日程について

### ■会議概要

#### 1 マーケティング調査について

各事項について、事務局より概要説明を行い各委員より意見をいただいた。

##### (1)団体アンケート調査について

[委員] この団体アンケートは、施設を使用することが想定される団体のみを対象として調査されたものか。

[事務局] そのとおりである。

[委員] 各団体の参加者数で、重複している者はあるのか。

[事務局] 重複している方もいると思われる。

[委員] 参加人数を記載していない団体もあるが、その団体に多くの人が所属しているということではなく、全体の傾向を捉えているという理解でよいか。

[事務局] ほぼ把握したと考えている。

[委員] このアンケートを見ると、まずホールありきで、団体の回答は用意されたものに対し、使いやすいか使いにくいかの尺度で測ってしまっている。

私見では、新しくできる文化交流拠点以上に、我孫子のまちづくりに大きな影響

力を持つ計画は、今後しばらくないだろうと言える位の事業だと思っている。よって、その役割も非常に重要で、現状市内に散在する文化施設や史跡が、本施設を中心に繋がっていかねば意味がないと考える。アンケートからは、施設に対するイメージとか、こういった使い方が望まれているかが見えない。今後は、ヒアリングを実施するとのことなので、どういう施設が望まれているのかという視点も調査していただきたい。

[事務局] 全ての団体をヒアリングするわけではないが、実施団体においては念頭に置いて実施したい。

[座長] ホールの規模を聞くということは、「できる」という前提になってしまう。例えば、団体の構成メンバーの年齢構成はどうなっているのか、どういう課題を抱えているのか、今後どのような活動が必要だと考えているのか、ということを引きちんと把握していただき、市民のニーズも重ねていくような仕組みが求められてくる。非常に重要なことである。また、アクセスの問題は非常に重要で、高齢者でも若年層でもアクセスし易いということは最低条件になってくると読み取れ、非常に強い要望となっているので、しっかり確認して欲しい。

今後の我孫子の未来像に関わっていくような施設になると思う。ある意味ラストチャンスかもしれないという重要な施設という指摘もあった。ニーズをもう少しあぶりだすことが必要な気がする。

## (2) 企業ニーズ調査の実施について

[委員] 調査の名称と実態が結びつかず、何をやろうとしているのか分からない。企業ニーズ調査は企業がどういうニーズを持っているのかを調査するのか。施設に対してどういう施設であって欲しいと考えているかを調査するのか。

[事務局] にぎわいを創出させることができる民間企業の参入の可能性について、調査したいと考えている。

[委員] 直接誘致するかどうか結びつかないと思うが、先進事例があれば、民間の連携の仕方や参入の仕方を調査するということはあると思う。参入の可能性に限ったヒアリングであると企業に合わせたものになってしまう。また、現状、立地場所を含めて、具体的に施設を示せないため、企業もどのように参入したらよいか分からないのではないかと。

[委員] 民間企業にプロデュースしてもらおうようになると、市民参加もなくなってしまうため、参入の可能性ありきで調査することには、疑問を感じる。

[座長] 既存の企業の思惑に沿う形で施設の設計がされていくという順序ではない。しっかりとした理念をもって、こういうことを実現したいが手を挙げてくれる可能性があるのかを調査していく必要がある。

[事務局] 連携する仕組みを学んでいく必要があると考えている。

[座長] 企業の思惑を探りたいということになるのではないかと。本来なら、ヒアリングをしながら、我孫子市が考えている市民と協働の枠組みを伝えていくべきではないかと。

[委員] 既に市民と協働で運営している企業などからヒアリングすることは、参入の可能性はないにしても有意義ではないかと。

[委員] 事務局でリストアップした企業だけでは大事な可能性を落としてしまうというこ

ともあるので、その可能性だけを捨てるための民間ヒアリングも非常に有意義である。

特定の企業だけではなく、ゼネコンなどは、いくらでも有意義な意見を出してくれると思うので、そういったことも必要ではないか。

[座長] ヒアリング先を見たときに、運営の在り方についてヒアリングするところがなかったの、業種だけでなくやり方、運営の仕方なども聞いていただくよう検討してほしい。

[事務局] それも踏まえてアンケートをしていきたいと考える。

[座長] にぎわいをつくるためには、必ずしも市内の人たちだけではなく、外からたくさん来ていただくほうが交流人口の増加にもつながる。例えば、柏で何か開かれていても我孫子に行きたいという状況がつかれたら、チャンスが広がるのではないか。企業ニーズ調査の実施については、課題もかなりあるので事務局のほうで整理をしていただきたい。

### (3) 市内ホール稼働状況について

[委員] それぞれの施設の定員の捉え方はどういう方法か。

[事務局] 当該施設の中で一番大きい部屋の定員としている。

[座長] 大ホールという視点から調査したということなのか。

[事務局] そのとおりである。

[委員] 1回あたりの席の埋まり方などのデータはないのか。けやきプラザが狭いという意見がどれだけ一般的なことなのかが分からない。

[座長] 数値的なところにとらわれてしまうと、800人入れる施設が無いから800席必要という意見もあるが、機能を例に挙げればコンサートを行うにしてもベルリンフィルを呼んで高度な芸術体験をしてもらうことと、自分たちの発表会として親しい人たちに見てもらおうということでは随分性格が違うので、その辺の整理も必要ではないか。後者の方は、代替機能をいくらでも考えられるし、ベルリンフィルの公演は、我孫子市の役割ではないというような点も整理すべきではないか。数字だけでは見えないところもあるので、大変な作業ではあるが調査はより詳細にお願いしたい。

### (4) 農産物直売所設置に関する調査について

文化交流拠点施設における農産物直売所設置に関する調査報告書（案）について、前回の専門家会議で指摘のあった部分についての修正点を事務局より報告した。

[座長] 最終的な総合評価について、点数の微増はあったものの順位は変わらなかった。

[事務局] 最終的に文化交流拠点との関係をどうするかというのは、これからの検討になるので、報告書の（案）は取らず、ここまでの専門家会議のまとめとし、この扱いについては市との協議のなかで決めていきたい。

[座長] ここでの議論の参考として、お示しいただいたということによろしいか。

[事務局] そのとおりである。

## 2 先進事例調査について

茨城県小美玉市にある「四季文化館みの〜れ」の視察について、事務局より報告を行った。

- [委員] 運営費について1億3千万円となっており、これは四季の里全体の収支だと思うが、レストランやチケット販売等の収入も含まれた収支であるか。
- [事務局] 支出のみで収入は入っていない。
- [委員] 収入分を考慮すると、一般的なものよりローコストになるというような経済性はあるのか。
- [事務局] 実施事業については、料金を取れるようなものが少なく、市職員の人件費が入っていることから費用が大きくなっている。レストランについては民間が運営しており、文化館単体の運営費である。
- [委員] スタッフの職種に、地域文化コーディネーター・文化創造コーディネーターといった専門職がいるようだが新規で採用したのか。
- [事務局] コーディネーターには劇団四季など外部から人材を登用しているとのことである。
- [委員] 市の正規職員か。
- [事務局] 市の非常勤職員である。
- [委員] フルタイムなのか。
- [事務局] 舞台管理マネージャーはフルタイムだが、その他については他の館も兼ねていたりする。館長は非常勤特別職という位置づけである。委員より指摘のあったコーディネーターの採用形態については確認をしていないが、いずれにしても職員だと考えられる。
- [委員] この事例は、住民ニーズを吸い上げて成功した事例という理解でよいか。
- [事務局] そのとおりである。
- [委員] 敷地の中の施設は、文化館の他に健康館・レストランがあり、その内公共施設は、文化館と健康館ということである。この施設は一帯として整備されたものか。
- [事務局] 最初に健康館が整備され、その後、この文化館とレストランが建てられた。さらに、同一の敷地内であるが健康館と文化館は少し離れていることもあり、交流はそれほどないようである。
- [委員] 四季の里に来場される方は、それぞれの施設を単体で利用される方が多いということになるのか。
- [事務局] 最初に整備された健康館では、文化館ができるまでの間、ミニコンサートなどが開かれていたようであるが、文化館がオープンしてからは、そのようなことはなく、市もそれぞれの機能を活かし運営しているようで、施設間の交流というイメージは薄いようである。
- [委員] レストランは民間であるが、市民の意見を吸い上げた形であったのか。
- [事務局] 飲食の機能は必要ということと、近くにファミリーレストランや飲食施設がないということで、文化館と一帯で整備されたようである。
- [座長] レストランは、文化館の中にあるのか、外にあるのか。
- [事務局] 別の建物になっているので、入りやすさという点では配慮がなされているという感じがする。
- [座長] 別の建物であれば、文化館で事業がなくても、レストランを単体で利用できるた

め、利用しやすいということになる。

[事務局] そのような客も多いようである。

[座長] 自主事業の内訳はどのようになっているのか。

[事務局] 劇団による催事、映画の上映、凧作りなど子どもたちへの手作り教室などが挙げられる。

[座長] 自主事業の内容・対象・規模はどうであるかということは、施設の性格に大きくかかわってくるので、この点は調査していただいた方がよい。先進事例調査の予定は他にあるか。

[事務局] なかなか行くのも難しいので、今、建設中、若しくは、これから建設される施設などについて参考とするため書面での照会などをしていきたい。

[座長] 商業的なにぎわいという点が「四季文化館みの〜れ」には強くでていないので、そういう視点も考えて、例えば、八戸の「はっち」などを参考にしてみるのもよいのではないか。「四季文化館みの〜れ」の事例によって、市民との合意形成は非常に大事であるという感じが伝わった。

### 3 導入機能・規模について

事務局より、導入機能・規模について説明を行った。

[座長] 本日は、何かを絞っていくということではなく、各委員から率直なご意見をいただき、可能性を考えるということで行いたい。こういう施設であるべきではないか、こういう規模や機能がいいのではないかなどについてお話しいただければと思う。

市民をどう巻き込むかということが、今日の議論のなかでは重要であると考えている。我孫子市の将来に向けてどういう施設がつけられるべきかということが、議論の中心になるのではと考えている。

[委員] 計画の方向性として、建物単体で考えてしまうと、その建設で終わってしまい、広がりを持ちにくくなる。我孫子市のまちづくりの一部として、今回の文化交流拠点をどのように位置づけ、つくっていくか一度コンセンサスを整えた方がよいと思う。

我孫子市に住んだ白樺派の文人や、多くの文化人が手賀沼の保全に力を尽くした経緯など、我孫子の歴史や文化、自然を踏まえた市独自のランドデザインに基づいて、今回の新たな文化交流拠点も整備されるべきと考える。

具体的には、古代に形成された独特の地形、白樺派の文化、多くの史跡を残す「ハケの道」、食文化が息づく「ふれあいライン」、ウォーキングやジョギング、ヨット、カヌーなどの水上アクティビティが楽しめる「手賀沼の水辺」といった3本の軸を含む手賀沼エリアを、我孫子の歴史・食・遊び文化の中心に据えたランドデザインを考えている。

建物については、私見であるが、我孫子の歴史・文化を背景とする様々な市民活動の発表の場であると同時に、新たな活動や、景観デザインの提案、生活スタイルなどが生み出されてゆく創造的な「学び舎」と位置づけるのがよいのではないかと考えている。

機能としては、発表の場を提供するホール、交流の機会を創出するためのホワイ

エヤラウンジ、地産地消に対応するショップ、水辺環境との連携などが考えられる。

まずは、手賀沼を活したランドデザインのコンセプトを練ることが大切で、それから建物に徐々にスケールダウンしていくようなイメージで計画していけばよいのではないかという考えである。

[委員] アプローチの仕方は、今のご意見に大賛成である。建物単体で狭く考えるよりは、広くまちづくりの中でランドデザインを描いていく形になるのだと思う。

団体アンケートのように、規模の考え方として、どんな施設を望むかと問えば当然大きなホールがあったほうがよいということになってしまう。そこに引っ張られるのではなく、しっかりランドデザインを決めて施設を考えると、「みのーれ」の紹介にもあった市民を巻き込んで進めていく手法がよいのではないか。

[座長] ホールありきではなく、確かにホールは大事であるがそこに至るまでのプロセスが重要である。市民の方にもただ聞くだけでは、大きなホールがほしいになってしまう。お互い学びながらつくりあげていくということも大切なことではないか。

[委員] グランドデザインを決めるためにどう進めていくかという中で、ホールありきではない文化交流拠点の整備を前提として、市民の目線をどう入れていくかということをしっかりやっていただく必要があると思う。他に我孫子市としても、このプロジェクトをどう進めていくかということは、市民目線も重要であるが、公共施設の再編と合わせて、市としてこのプロジェクトをどう位置づけるかという視点もあっていいと思う。にぎわいという民間収益事業がイメージされがちであるが、一番にぎわいを生み出すのは、市民利用型の公共施設であるので、市としてもコンセプトをしっかりと整理して進めていただく方がよい。

[座長] 我孫子市の立地的に有利な点は、都心からも近いため様々なアドバイザーが来やすい条件にあると思う。そういう点では人的資源を活用できる条件が整っていると思う。

#### 4 候補地の概要及び評価・選定基準について

事務局より、候補地の概要及び評価・選定基準について説明を行った。

[座長] 細長い地形の我孫子市において、アクセスが非常に大切である。市民に聞いてもアクセスについては同様であると思う。公共交通のアクセス情報、駅からの距離など詳細に記載する必要がある。

[事務局] 評価項目をご確認いただくとともに、必要な項目があれば、次回の専門家会議でご意見をいただきたい。

[委員] 市は自動車でのアクセスをどう考えているのか。基本的には公共交通機関でアクセスできる条件が好ましいと思う。その中でバスの頻度がどの程度あるのか情報がほしい。

[事務局] その内容も取り入れて報告いたしたい。

以上